



連句の世界をテーマに会場も一体で進められた公開講座「4号館講堂」

完成した歌仙

月光を一つ一つに蟹の泡  
ベンガラの間に蚊遣り焚く頃石田寛人  
古のうたのすさびを今にして川口順啓  
漆の肌にうるむひととき  
少年は金の鬼があるといふ  
玻璃に近づき秋を覗ける  
萬紅葉宇都谷峰 吉右衛門  
ころころとコンベイトが戯れて  
はるばる流れ行く雲を見る  
微笑みつづくし歌留多読むひと  
藤壺に母の面影探しゆて  
湖月抄をば三たび繙く  
お地蔵に狸化けたり望の夜  
駆頭に並び初めたる赤い羽根  
あるとはなしに指輪の目立つ  
散る花の触れしは誰の袖ならむ  
雪形消ゆる遠山の峰  
寛朗良一 薫順一 良 順



## 即興の合作に知的な妙味

### 有馬元文相ら歌仙巻く

### 文学部公開講座「俳句と連句」

金沢学院大学文学部の公開講座シンボジウム「俳句と連句」は七月三日、4号館講堂で開かれ、学生、一般聴講者ら約三百人が、俳句、連句など日本特有の短詩形文学の魅力を掘り下げました。また、パネリストが聴講者と合作で、季語や月、花などを定位置で詠み込んだ連句を三十六句で完成させる「歌仙を巻く」も行われ、「座」の力が生み出す知的な妙味に触れました。

シンボジウムでは、有馬朗人元文相・元東京大学総長、川口順啓JR東海生涯学習財団顧問（金沢市出身）、復本一郎神奈川大学教授、金沢市在住の詩人小池田薰さん、金澤学院大学の石田寛人学長、柳澤良一文学部長がパネリストを務めました。講演で有馬氏は、座を同じくする人が共同で創作する「連衆の合作」が日本特有の文学であることを解説しました。復本氏は俳人松尾芭蕉が

春風にまかす吉凶神の国  
鞦韆高く跳ねあがるとき  
マンションの庭の一隅蝶生まる  
のひら熟れる青き果物  
美しき女教師に追ひすがりをり  
波も越ゆるか末の松山

初時雨木の葉動きて身顫ひす  
萬歳樂を熱くするべし  
携帯とパソコンとには縁もなく  
虫は百万石の月明り

古里は百万石の月明り

秋の夜長は涙の音

どうしようかぼちやの馬車が通りすぎ  
絵本を出して子らが尋ねる  
横町に人の声する春の雪  
ゆらりゆらりと芽は顔を出す  
湖月抄をば三たび繙く  
お地蔵に狸化けたり望の夜  
駆頭に並び初めたる赤い羽根  
あるとはなしに指輪の目立つ  
散る花の触れしは誰の袖ならむ  
雪形消ゆる遠山の峰  
寛朗良一 薫順一 良 順

一面では俳諧（連句）の達人であつたと紹介しました。川口氏は制約にとらわれない雑の句にも魅

日本科学未来館の総館長（非常勤）に就任しました。同館館長は宇宙飛行士の毛利衛さんが務めています。

### 石田学長が日本科学未来館総館長に就任

力があると強調しました。連句に初挑戦した小池田さんは、書き手の個性を打ち出す現代詩と、座で個性を作った連句を比較しました。



### 学生に起業への挑戦促す

学生に起業に対する認識を深めてもらう「アントレプレナーセミナー」は六月二十九日、4号館講堂で開かれま

した。情報サイト運営のビデオオール代表森英一朗氏と、レンタルサーバー・ミナーニン金澤学院大学は六月二十九日、4号館講堂で開かれました。同館館長は宇宙飛行士の毛利衛さんが務めています。

一面では俳諧（連句）の達人であつたと紹介しました。川口氏は制約にとらわれない雑の句にも魅

日本科学未来館の総館長（非常勤）に就任しました。同館館長は宇宙飛行士の毛利衛さんが務めています。

### バド、卓球など優勝

### 北陸三県私立短大大会

第三十八回北陸三県私立短大大会は六月二十五、二十六日、富山県総合運動公園・総合体育センターなど会場に行われ、十三人が全八競技に参加しました。

主な成績は、バドミント



個人戦優勝の卓球（左）と団体・個人優勝のバドミントン（右）の選手たち